

## 第6回山の気象シンポジウム

昭和37年6月9日(土)午後1時

気象庁第1会議室

### 1. 鳥羽節子(日本女子大): 春の雨飾山の気象(20分)

36年3月23日から30日にかけて私達は頸城山塊雨飾山に行ってきた。そのとき不完全ながら気象観測もしたので、一応整理の上報告する。

### 2. 金子新之(昭和山岳会): 春の毛勝、剣岳縦走時の気象(30分)

36年3月7日から4月4日まで、僧ヶ岳宇奈月尾根から毛勝三山をへて剣、立山の縦走を2名で行った。この間はラントを使用せず全部雪洞とイグルーで行った。9日の移動高の予想が1日遅れた点、18日の旋風で積雪状態が急変した点、26日の台湾坊主による降雪、30日の寒冷前線による強風などについて、ラジオ天気図との関係について報告する。

### 3. 長谷田茂男(富士重工三鷹山岳部): 冬の塩見岳の気象(30分)

30年12月29日から37年1月4日まで西小石岳、塩見岳において合宿を行った。期間中のラジオ天気図使用による天候悪化の予測とその結果、第1テント埋没の原因、風と積雪の変化などについて報告する。

### 4. 大井正一(気象庁山岳部): 冬の吾妻山の気象(30分)

気象庁山岳部は36年12月28日から1月3日まで、吾妻山にてスキー合宿を行ったが、その間の気象をスライドを用いて説明する。この間31日から2日にかけて全国的多数の気象遭難が起ったことは周知の通りである。

### 5. 東京理科大気象研究部: 夏の立山の気象(30分)

36年7月、東京理科大学は読売新聞社主催の立山総合調査において、富山地方気象台、富山大学、その他地元学校の協力をえて、立山山地内および富山平野内に約20カ所の気象観測点を設け同時観測を行った。その結果、

晴天時の山谷風の機構と悪天時の地形性上昇気流について若干の調査をすることが出来た。

### 6. 山本三郎(船津測候所): 富士山の気象(第5報)(30分)

観天望気と天気図との関係についての調査と統計。および強風、雪崩などの事故との関係について報告する。

### 7. 高橋博(地質調査所): 精密高度計について(第2報)(20分)

第4回シンポジウムで報告した精密高度計を実際の登山に使って多くのデータをとった。今回はこれらの結果から明らかになった。実用上の利点、注意、メーターの調整程度と長期使用による精度の変化、天候および気圧配置の型や変化、そして気圧の日変化による誤差などを中心に報告する。

### 8. 大井正一(気象庁高層課): 富士山の気圧変動(30分)

第3回シンポジウムにおいて気温の変動の模様について報告したが、今回は全くそれと同様の方法により、気圧変動の模様を解析したので、それについて報告する。

### 9. 有住直介(気象庁予報課): 上層天気図の利用法(40分)

最近の上層天気図について登山者の関心が高まってきている。そこで今回はとくに上層天気図(とくに700MB天気図)の利用方法を説明する。

### 10. 岩波映画: 第3次越冬の記録(映画)(50分)

この映画には南極大陸に大陸飛行を試みて地震探針を行ったこと、ブリザードによる雪煙、極光などがよく描写されている。この映画は今回とくに南極事務室のご好意により文部省より提供していただいたものである。